

1995年と2000年の国勢調査に見る外国人の教育

——外国人青少年の家庭背景・進学・結婚——

Education of Japan's Foreign Residents Viewed from 1995 and 2000 Census

--- Family Back Ground, Schooling and Marriage of Foreign Youth ---

大阪成蹊大学 鍛冶致

岡山大学 高谷幸

大阪経済法科大学 大曲由起子

徳島大学 樋口直人

Osaka Seikei University, KAJI Itaru

Okayama University, TAKAYA Sachi

Osaka University of Economics and Law, OMAGARI Yukiko

Tokushima University, HIGUCHI Naoto

【要約】

本稿では、国勢調査のデータを用いた在日外国人の社会経済的地位をめぐる動態分析の一環として、1995年および2000年の国勢調査オーダーメイド集計データを参照しつつ、「外国にルーツを持つ子どもたち」の学業達成という視点から、彼（女）らの家庭背景・進学・結婚について考察する。まず第1～3節では「外国にルーツを持つ子どもたち」の人口規模を両親の国籍組み合わせ別に明らかにする。続く第4節では持ち家という変数に、第5節では親の学歴と職業という変数に着目し「外国にルーツを持つ子どもたち」の家庭環境について考察する。最後に第6節では通学率と未婚率という視点から「外国にルーツを持つ若者」の進学と結婚について考察する。

キーワード 外国人、外国にルーツを持つ子どもたち、教育、進学率、国勢調査

0 はじめに

本稿では、国勢調査のデータを用いた在日外国人の社会経済的地位をめぐる動態分析の一環として、1995年および2000年のデータを開示しつつ、「外国にルーツを持つ子どもたち」の学業達成という視点から、彼（女）らの家庭背景・進学・結婚について考察する。

本稿が用いる国勢調査のデータはウェブ上で一般に公開されているものではなく、オーダーメイド集計というサービスを利用することにより我々が設計・入手したものであるが、

本稿をはじめるとあたり、まずオーダーメイド集計の限界について断っておきたい。また、合わせて、我々の研究グループによるデータの開示計画についても触れておきたい。

本稿の主執筆者である鍛冶は研究グループの中では教育にかかわるテーマを担当しており、調査年次ごとに教育にかかわる論考を1本ずつ発表することになっている。これまでのところ、2000年のデータを利用して大曲(2011c)を著しており、本稿では、1995年のデータを利用して在日外国人の教育について論じる予定であった。だが、大曲(2011c)では紙幅の都合により十分に紹介しきれなかったデータもあることから、本稿では、1995年のデータと合わせて2000年のデータについても改めて紹介することとした。なお、オーダーメイド集計サービスが利用できる調査年次としては現在のところ、1990年、1995年、2000年、2005年の4年次分があるが、1990年と2005年のデータについても順次それぞれ個別の論考として発表していく予定である。

また、オーダーメイド集計が用いるのは抽出詳細集計用のデータであり全数のデータではない。このため、本稿が紹介するデータは、ウェブ上で一般に公開されている全数のデータと細部が一致しない。さらに、抽出詳細集計用のデータの設計上、クロス集計できる変数の組み合わせは限られており、しかも、ある調査年次のデータで作成できたクロス集計表が、他の調査年次ではできないということも多々ある。例えば、国勢調査にAとBの二つの調査項目が常にあるからといって、両者をクロス集計したデータが常に入手可能とは限らないし、仮に入手可能だったとしても、それが入手可能なのは一部の調査年次だけ、ということも多々あるのだ(そもそも、抽出詳細集計用のデータとは、あくまでも抽出詳細集計のために作られたデータであり、当時はこれがオーダーメイド集計のために二次利用されるなどとは想定していなかったと思われる)。

ところで、我々が入手したデータは一の位が全てゼロになっていたが、これもまたオーダーメイド集計の限界の一つである。これはプライバシー保護の観点等から施されている処理であり、具体的には集計表作成後に各セルの数値の一の位を全て四捨五入してからデータを納品しているとのことである。我々はこうして得られた数値を足したり割ったりして〇〇率を算出しているが、四捨五入で生じた小さな誤差がこうした演算によって増幅するという事実は、先に紹介した抽出詳細集計用のデータであることによって生じる誤差と相まって、常に我々の頭を悩ませている。

とはいえ、現時点においてはこのオーダーメイド集計が比較的簡易に入手できるデータのなかで最善のものであると言わざるを得ない。少なくとも、文部科学省が公表している学校基本調査や「日本語指導が必要な外国人児童生徒の受入れ状況等に関する調査」を見て外国にルーツを持つ子どもたちの増減や高校進学率を把握しようとしたり、法務省が公表している在留外国人統計を見て外国にルーツを持つ子どもたちの人数や外国人保護者の職業について想像しようとしたりするよりも、はるかに正確かつ具体的な数字を、このオーダーメイド集計が提供してくれることは間違いない。

本稿を執筆するにあたっては、〇〇率を算出する前の実数を、可能な限りオーダーメー

ド集計で提供されたままのかたちで示すことを心がけた。本稿にはいくつかのグラフも登場するが、本稿が示す実数を用いれば、これ以外にも様々なグラフが作成できるはずだ。また、既に発表されたり今後発表される論考も合わせて参照すれば、5年ごとの経年変化も追えるはずだ。これまで公表されることのなかったデータをいち早く開示して広く流通させ、在日外国人の教育に関心を持つ人々に引用または二次利用してもらおう——これが本稿の目指すところである。

1 外国人は何人（なにじん）と結婚しているか

「外国にルーツを持つ子どもたち」のなかには両親が外国人の者もいれば、親の一方のみが外国人の者もいる。彼（女）らのこうした家庭背景を知るための第一歩として、まず日本で暮らす外国人が何人（なにじん）と結婚しているかについて確認しておこう。表1Aは夫婦の国籍別の世帯数を1995年のデータで、表1Bは同じもの2000年のデータで集計したものである。なお、参考までに母子家庭と父子家庭の世帯数についても親の国籍別に集計した。

表1A: 夫婦の国籍別の世帯数および単親家庭の世帯数(1995年)

(単位: 世帯)

		夫 の 国 籍								
		日本	韓国・朝鮮	中国	フィリピン	タイ	ブラジル	ペルー	他(含不詳)(母子のみ)	
妻 の 国 籍	日本	28,379,860	30,250	7,030	760	190	1,280	360	16,740	(513,530)
	韓国・朝鮮	30,380	87,900	80	10	0	0	0	150	(5,070)
	中国	23,430	110	26,790	10	0	10	0	200	(760)
	フィリピン	35,620	130	10	2,650	0	20	0	240	(520)
	タイ	6,970	10	20	10	1,080	10	0	170	(40)
	ブラジル	3,870	0	0	10	0	23,530	150	210	(310)
	ペルー	640	0	0	0	0	130	4,860	150	(110)
	他(含不詳)	10,710	70	180	10	10	30	40	15,230	(280)
	(父子のみ)	(82,110)	(780)	(70)	(20)	(0)	(100)	(10)	(100)	—

注: 単親家庭は未成年の子と同居している家庭のみ。出典: 1995年国勢調査オーダーメード集計。

表1B: 夫婦の国籍別の世帯数および単親家庭の世帯数(2000年)

(単位: 世帯)

		夫 の 国 籍								
		日本	韓国・朝鮮	中国	フィリピン	タイ	ブラジル	ペルー	他(含不詳)(母子のみ)	
妻 の 国 籍	日本	28,923,490	31,630	8,640	1,180	350	1,800	720	27,080	(617,960)
	韓国・朝鮮	36,940	80,640	90	10	0	20	10	180	(6,630)
	中国	37,260	260	34,020	0	0	10	10	240	(1,860)
	フィリピン	48,690	250	30	3,430	10	190	90	250	(840)
	タイ	11,070	10	0	20	1,110	20	0	140	(270)
	ブラジル	5,310	10	30	10	0	38,980	340	280	(1,890)
	ペルー	1,050	0	10	0	0	240	5,550	180	(220)
	他(含不詳)	13,860	90	80	0	0	130	180	16,800	(620)
	(父子のみ)	(85,870)	(610)	(110)	(170)	(20)	(60)	(0)	(180)	—

注: 単親家庭は未成年の子と同居している家庭のみ。出典: 2000年国勢調査オーダーメード集計。

これらを見ると、夫婦の少なくとも一方が外国人である世帯のうちで最多を占めるのは、双方が韓国・朝鮮人の夫婦であることが分かるが、次に多いのは夫が日本人で妻がフィリピン人の夫婦であることも分かる。夫婦の国籍別の組み合わせのうち上位 10 位以内には数値にアンダーラインを引いておいたが、兩年のデータを見比べてみると、上位 10 位以内の「顔ぶれ」には変化が全くない。ただ、細かく見ていくと、5 年間の間に韓国・朝鮮人夫婦がその数を 7 千世帯も減らしていることが分かるし、5 年間の間に、日本人夫と中国人妻の世帯の数が、夫婦がともに中国人である世帯の数を追い抜いたことも分かる。さらに注目すべきは女手一つで子を育てるブラジル人の増加であり、たった 5 年間の間に、ブラジル人母子家庭の数は 6 倍に増えている。

2 外国人は何人（なんにん）の子と同居しているか

では次に、日本で生活する外国人がいったい何人（なんにん）の子と同居しているかについて見ておこう。表 2A1 および表 2B2 では先の表で上位 10 位以内に挙がっていた夫婦の国籍別の組み合わせのみを取りあげた。国籍に関してはローマ字 2 文字から成る略号を用いており、JP は日本を、KR は韓国・朝鮮を、左側は夫の国籍を、右側は妻の国籍を示している。したがって、もし KR・JP とあれば、韓国・朝鮮人夫と日本人妻という組み合わせの夫婦を指す。また「子ども 3 人以上」というカテゴリーはデータの設計上もともとあったカテゴリーであり、我々がここから子ども 3 人の世帯や子ども 4 人の世帯の数を分離するのは不可能である。さらに、妻が 70 歳以上の夫婦も子と暮らしているのを見ても分かる通り、本表でいう「子」とは「未成年」ではなく「息子または娘」を意味する。

次に、夫婦と同居している子が 1 世帯あたり何人いるかを集計したのが表 2A2 および表 2B2 であるが、本表からは、概ねどの集団も妻が 30 代後半から 40 代前半にかけて子育てのピークであり、仮にどの集団にも共通する子育て世代を特定するとすれば、その前後 5 年間、すなわち 30 代と 40 代がそれにあたると判断できるだろう。

また、些末なことを指摘しておくが、表のなかで数値が 1.5 人を越えるセルを有するのは、日本人どうしの夫婦、韓国・朝鮮人どうしの夫婦、韓国人夫と日本人妻の夫婦だけであり、数値が 1.0 人を越えるセルを全く（あるいはほとんど）有していないのは、日本人夫と中国人妻の夫婦と日本人夫とタイ人妻の夫婦だけである。

表2A1: 夫婦の国籍別、妻の年齢階級別、同居子ども数別の世帯数(1995年)

(単位: 世帯)

	夫-妻									
	JP-JP	JP-KR	JP-CH	JP-PH	JP-TH	KR-JP	KR-KR	CH-JP	CH-CH	BR-BR
妻15～19歳	11,970	30	10	110	0	0	10	10	20	670
子 妻20～24歳	259,090	740	770	1,840	310	660	590	150	1,000	3,740
妻25～29歳	726,900	2,010	2,070	4,190	930	1,690	1,750	530	3,270	3,890
ど 妻30～34歳	461,860	2,150	2,440	2,940	700	1,080	1,180	350	2,750	1,930
妻35～39歳	253,960	2,060	2,160	1,140	660	560	870	270	990	900
も 妻40～44歳	282,400	1,830	1,420	430	360	650	650	150	380	610
妻45～49歳	614,340	1,240	780	130	50	900	1,290	200	320	460
な 妻50～54歳	975,770	890	440	50	20	740	1,940	340	210	520
妻55～59歳	1,331,780	780	230	20	20	1,020	2,990	250	310	260
し 妻60～64歳	1,472,020	210	120	0	0	800	3,140	280	250	40
妻65～69歳	1,155,690	90	60	20	0	660	1,980	230	200	10
妻70歳以上	1,078,770	100	20	0	0	840	2,210	150	250	0
妻15～19歳	10,650	30	10	80	20	50	0	10	0	170
子 妻20～24歳	233,740	650	320	2,260	280	650	350	120	410	1,060
妻25～29歳	746,420	2,010	1,400	6,460	830	1,760	2,180	570	1,320	1,730
ど 妻30～34歳	725,380	1,980	2,080	3,600	900	1,380	2,270	430	3,470	1,330
妻35～39歳	431,430	1,710	1,960	1,260	380	660	1,180	200	2,310	650
も 妻40～44歳	622,740	1,220	1,230	300	100	610	1,300	190	1,430	420
妻45～49歳	1,243,850	790	570	50	40	970	2,530	150	580	300
1 妻50～54歳	1,338,600	380	360	0	20	640	3,050	210	270	310
妻55～59歳	1,054,770	110	80	10	0	570	2,970	180	230	50
人 妻60～64歳	685,210	50	40	0	0	350	1,700	90	120	50
妻65～69歳	393,620	20	10	0	0	160	790	60	80	0
妻70歳以上	339,480	20	10	0	0	150	500	30	120	0
妻15～19歳	700	0	0	0	0	0	0	0	0	0
子 妻20～24歳	69,580	200	70	460	80	320	80	30	90	230
妻25～29歳	483,150	980	540	3,360	310	1,310	1,280	190	530	550
ど 妻30～34歳	1,296,830	1,660	990	2,960	350	1,960	4,850	400	1,370	780
妻35～39歳	1,600,370	1,730	1,140	1,190	330	1,760	4,770	260	1,290	740
も 妻40～44歳	1,888,910	1,190	870	250	120	1,230	5,140	210	1,010	500
妻45～49歳	1,854,010	760	320	110	0	1,010	5,000	160	440	330
2 妻50～54歳	983,610	150	120	10	0	510	3,900	90	250	100
妻55～59歳	391,920	50	0	0	0	170	1,980	30	150	10
人 妻60～64歳	143,130	30	0	0	0	80	660	30	70	40
妻65～69歳	57,400	0	0	0	0	50	140	10	20	0
妻70歳以上	40,860	0	10	0	0	0	100	20	50	0
子 妻15～19歳	50	0	0	0	0	0	0	0	0	0
妻20～24歳	6,690	40	0	130	0	40	0	0	0	0
供 妻25～29歳	92,840	260	90	830	50	390	410	20	50	80
妻30～34歳	466,320	680	130	820	50	1,200	2,550	90	220	260
3 妻35～39歳	873,470	720	230	470	40	1,130	4,910	130	290	320
妻40～44歳	886,530	570	170	100	40	760	6,010	110	410	240
人 妻45～49歳	530,870	220	110	30	0	670	5,300	50	170	210
妻50～54歳	181,810	50	60	0	0	120	2,460	20	70	40
以 妻55～59歳	56,250	0	0	0	0	30	760	40	40	0
妻60～64歳	14,490	0	0	0	0	0	190	0	0	10
上 妻65～69歳	4,930	0	0	0	0	10	10	0	0	0
妻70歳以上	4,720	0	0	0	0	0	30	0	0	0
総計	28,379,860	30,380	23,430	35,620	6,970	30,250	87,900	7,030	26,790	23,530

注: JP=日本、KR=韓国・朝鮮、CH=中国、PH=フィリピン、TH=タイ、BR=ブラジル。

出典: 1995年国勢調査オーダーメイド集計。

表2B1: 夫婦の国籍別、妻の年齢階級別、同居子ども数別の世帯数(2000年)

(単位: 世帯)

	夫-妻									
	JP-JP	JP-KR	JP-CH	JP-PH	JP-TH	KR-JP	KR-KR	CH-JP	CH-CH	BR-BR
妻15～19歳	10,990	30	20	80	0	0	30	10	10	870
子 妻20～24歳	177,020	400	1,020	750	130	420	310	190	1,200	3,680
妻25～29歳	739,330	1,710	3,080	2,960	770	1,590	1,870	440	3,550	4,080
ど 妻30～34歳	577,030	2,360	3,740	4,500	1,260	1,340	1,390	510	2,770	2,580
妻35～39歳	333,830	2,250	3,110	2,540	1,160	770	890	240	1,380	1,540
も 妻40～44歳	263,930	2,330	2,390	1,140	850	460	810	180	530	1,120
妻45～49歳	523,640	2,180	1,490	420	200	700	1,330	230	460	1,110
な 妻50～54歳	1,094,160	1,700	1,350	210	140	1,060	1,910	230	460	930
妻55～59歳	1,473,010	970	800	50	30	1,060	3,540	590	370	390
し 妻60～64歳	1,594,650	530	480	50	10	860	3,930	380	360	220
妻65～69歳	1,452,480	300	100	30	10	750	2,980	230	210	70
妻70歳以上	1,636,130	210	60	20	0	910	2,990	400	370	50
妻15～19歳	11,800	20	30	40	0	40	0	10	10	260
子 妻20～24歳	188,040	590	510	950	70	610	220	100	430	2,000
妻25～29歳	716,170	1,640	2,070	3,870	630	1,570	1,610	440	1,720	3,000
ど 妻30～34歳	805,150	1,930	3,270	6,390	1,250	1,520	1,840	650	3,440	2,420
妻35～39歳	531,020	1,840	2,770	3,210	1,090	760	1,270	350	3,690	1,670
も 妻40～44歳	506,170	2,210	2,000	1,170	590	630	1,220	250	2,190	1,230
妻45～49歳	999,880	1,200	990	360	100	820	2,280	170	1,500	800
1 妻50～54歳	1,504,090	650	550	70	20	1,000	2,980	170	490	430
妻55～59歳	1,215,220	300	150	20	0	640	3,170	240	170	130
人 妻60～64歳	803,300	140	40	0	0	300	2,410	110	160	50
妻65～69歳	511,280	20	0	10	0	190	1,230	10	110	10
妻70歳以上	504,460	30	0	0	0	180	680	70	150	10
妻15～19歳	1,080	20	0	10	0	10	0	0	0	30
子 妻20～24歳	54,270	90	100	240	30	120	20	30	50	330
妻25～29歳	438,450	890	580	2,880	270	1,090	810	200	550	1,200
ど 妻30～34歳	1,118,630	1,670	1,750	6,230	840	2,090	3,410	530	1,400	1,890
妻35～39歳	1,468,390	2,090	1,670	3,800	690	1,930	4,140	500	2,390	1,820
も 妻40～44歳	1,520,120	1,780	1,230	1,130	360	1,460	3,940	350	1,230	1,430
妻45～49歳	1,470,360	1,060	630	340	150	990	4,730	200	740	720
2 妻50～54歳	1,160,290	420	230	80	20	830	3,950	170	250	280
妻55～59歳	476,650	150	60	10	0	260	2,080	40	130	90
人 妻60～64歳	187,830	60	0	0	0	90	1,010	10	80	20
妻65～69歳	79,730	10	0	0	0	20	280	0	10	0
妻70歳以上	61,800	0	0	0	0	20	170	10	40	0
子 妻15～19歳	120	0	0	0	0	0	0	0	0	0
妻20～24歳	5,480	30	0	40	0	50	20	0	10	30
供 妻25～29歳	80,630	200	80	920	70	370	150	20	60	250
妻30～34歳	338,510	710	290	2,280	130	840	1,150	160	290	660
3 妻35～39歳	691,340	1,060	260	1,440	130	1,360	2,960	110	330	720
妻40～44歳	769,160	600	280	340	20	970	4,140	70	360	440
人 妻45～49歳	508,700	400	90	120	30	590	3,440	30	140	250
妻50～54歳	231,680	110	20	0	0	240	2,180	20	120	160
以 妻55～59歳	57,830	50	0	10	0	120	890	10	40	10
妻60～64歳	18,450	10	0	0	0	10	220	0	40	0
上 妻65～69歳	6,150	0	0	0	0	0	40	0	20	10
妻70歳以上	5,070	0	0	0	0	0	60	0	20	0
総 計	28,923,490	36,940	37,260	48,690	11,070	31,630	80,640	8,640	34,020	38,980

注: JP=日本、KR=韓国・朝鮮、CH=中国、PH=フィリピン、TH=タイ、BR=ブラジル。

出典: 2000年国勢調査オーダードータ集計。

表2A2: 夫婦の国籍別、妻の年齢階級別の同居する子どもの1世帯あたりの人数(1995年)

(単位: 人/世帯)

	夫-妻									
	JP-JP	JP-KR	JP-CH	JP-PH	JP-TH	KR-JP	KR-KR	CH-JP	CH-CH	BR-BR
妻15～19歳	0.52									0.20
妻20～24歳	0.69	0.72	0.40	0.76	0.66	0.85	0.50	0.60	0.39	0.30
妻25～29歳	0.98	0.91	0.67	1.06	0.76	1.09	1.07	0.77	0.49	0.49
妻30～34歳	1.61	1.14	0.79	1.17	0.88	1.60	1.83	1.19	0.88	0.86
妻35～39歳	2.01	1.19	0.90	1.26	0.83	1.87	2.21	1.31	1.19	1.20
妻40～44歳	1.94	1.12	0.95	1.03	0.75	1.67	2.31	1.44	1.46	1.22
妻45～49歳	1.55	0.99	0.87	1.13		1.43	2.05	1.12	1.32	1.24
妻50～54歳	1.11	0.57	0.80			1.01	1.63	0.68	1.23	0.65
妻55～59歳	0.71	0.22	0.26			0.56	1.07	0.73	0.90	0.22
妻60～64歳	0.44	0.38				0.41	0.63	0.38	0.59	
妻65～69歳	0.32					0.33	0.38	0.27	0.40	
妻70歳以上	0.30					0.15	0.28	0.35	0.52	

注: JP=日本、KR=韓国・朝鮮、CH=中国、PH=フィリピン、TH=タイ、BR=ブラジル。空欄は総数が200世帯未満のセル。「子ども3人以上」の夫婦には3.1人の子がいと仮定して集計。子には20歳以上の者も含まれる。

出典: 1995年国勢調査オーダーメイド集計。

表2B2: 夫婦の国籍別、妻の年齢階級別の同居する子どもの1世帯あたりの人数(2000年)

(単位: 人/世帯)

	夫-妻									
	JP-JP	JP-KR	JP-CH	JP-PH	JP-TH	KR-JP	KR-KR	CH-JP	CH-CH	BR-BR
妻15～19歳	0.60									0.28
妻20～24歳	0.74	0.78	0.44	0.78	0.57	0.84	0.56	0.50	0.33	0.46
妻25～29歳	0.93	0.91	0.60	1.17	0.80	1.06	0.83	0.82	0.51	0.72
妻30～34歳	1.44	1.12	0.85	1.34	0.96	1.43	1.57	1.19	0.90	1.09
妻35～39歳	1.86	1.29	0.89	1.39	0.94	1.83	2.02	1.41	1.22	1.31
妻40～44歳	1.94	1.10	0.90	1.19	0.75	1.86	2.17	1.37	1.34	1.29
妻45～49歳	1.58	0.94	0.79	1.14	1.03	1.49	1.90	1.05	1.20	1.05
妻50～54歳	1.14	0.64	0.50	0.64		1.09	1.60	0.97	1.03	0.83
妻55～59歳	0.73	0.51	0.27			0.74	1.04	0.40	0.78	0.55
妻60～64歳	0.47	0.39	0.08			0.41	0.68	0.26	0.69	0.31
妻65～69歳	0.34	0.12				0.24	0.42	0.04	0.55	
妻70歳以上	0.29	0.13				0.20	0.31	0.19	0.50	

注: JP=日本、KR=韓国・朝鮮、CH=中国、PH=フィリピン、TH=タイ、BR=ブラジル。空欄は総数が200世帯未満のセル。「子ども3人以上」の夫婦には3.1人の子がいと仮定して集計。子には20歳以上の者も含まれる。

出典: 2000年国勢調査オーダーメイド集計。

3 外国人の親と生活している子の人口規模

次に、前節で掲げられた表を手がかりに「外国にルーツを持つ子どもたち」の人口規模を推計してみよう。

まず、「外国にルーツを持つ」の部分については同居している親の国籍がルーツであると解釈する。したがって、例えば、母親が日本に帰化したフィリピン人だった場合、その子は「外国にルーツを持つ子どもたち」に含まれない。一方、子は父と同じく日本国籍だが、母は中国籍という場合、その子は「外国にルーツを持つ子どもたち」に含まれる。

次に、「子どもたち」の部分についてだが、データの設計上、親の国籍別の子の年齢別人口は把握できないようになっている。そこで、次善の策として、本稿では「55歳未満の母のもとを離れていないこと」を以て「子どもである」と解釈する。したがって、例えば、大学に進学して一人暮らしをしている18歳の子どもは「子ども」としてカウントされないが、54歳の母と同居する30歳の会社員は「子ども」としてカウントされてしまうことになる。また、母の年齢を50歳未満ではなく55歳未満に設定した理由だが、これは「55歳未満の母のもとを離れていない子ども」のなかには母が30代前半で産んだ未成年がまだ多数いるだろうし、成人している子のなかにも親の扶養を受け続けている未婚の子どもが多数いると考えたからである。もし、このような処理に納得できないという場合は、前節に開示した表を用いて「50歳未満の母と同居する者を子どもとみなす」等、自分の好きなような設定で「外国にルーツを持つ子どもたち」の人口を計算して欲しい。ところで、参考までに一人親家庭についても子どもの人数を挙げておいた。こちらの方は、データの設計上、未成年のみが子どもとしてカウントされているが、二人親家庭とできるだけ条件をそろえるため、親が55歳以上の一人親家庭は集計から除外してある。

ところで、岩井（2009: 28）が紹介している2006年の全国調査によれば、20歳以上の日本人1285人のうち、3人の子を持つ者は24.5%、4人以上の子を持つ者は2.3%だったが、 $2.3 \div (24.5 + 2.3) = 0.086$ であることから、3人以上の子を持つ者の8.6%は4人以上の子を持つことが分かる。そこで、本稿では「子ども3人以上」を子ども3.1人分として計上した。日本で暮らす日本人（しかも70歳以上の年齢層も含む人々）についての計算結果を日本で暮らす外国人（しかも55歳未満の人々）にまで適用するのは乱暴かも知れないが、「子ども3人以上」を子ども3.0人分と計上するよりは実態に近い結果が得られると考える。

以上のような処理を経て「外国にルーツを持つ子どもたち」の人口規模を推計したのが表3Aと表3Bである。両表から言えるのは以下のことである。

表3A: 親の国籍別、55歳未満の母と同居する子の人口および55歳未満の父と同居する父子世帯の子の人口(1995年)

(単位: 人)

	父 (全 年 齢) の 国 籍									
	日本	韓国・朝鮮	中国	フィリピン	タイ	ブラジル	ペルー	他(含不詳)(母子のみ)		
55	日本	31,126,707	36,220	5,852	843	150	1,168	211	13,859	(828,324)
歳	韓国・朝鮮	29,902	129,933	164	10	0	0	0	140	(8,389)
未	中国	18,490	70	23,460	20	0	0	0	211	(986)
満	フィリピン	38,078	151	0	1,082	0	10	0	171	(721)
母	タイ	5,508	10	0	0	140	10	0	60	(80)
の	ブラジル	3,619	0	0	0	0	15,985	91	100	(412)
国	ペルー	717	0	0	0	0	100	3,932	30	(151)
籍	他(含不詳)	11,485	100	141	0	0	30	112	14,014	(425)
	(父子のみ)	(130,647)	(1,533)	(70)	(20)	(0)	(172)	(10)	(161)	—

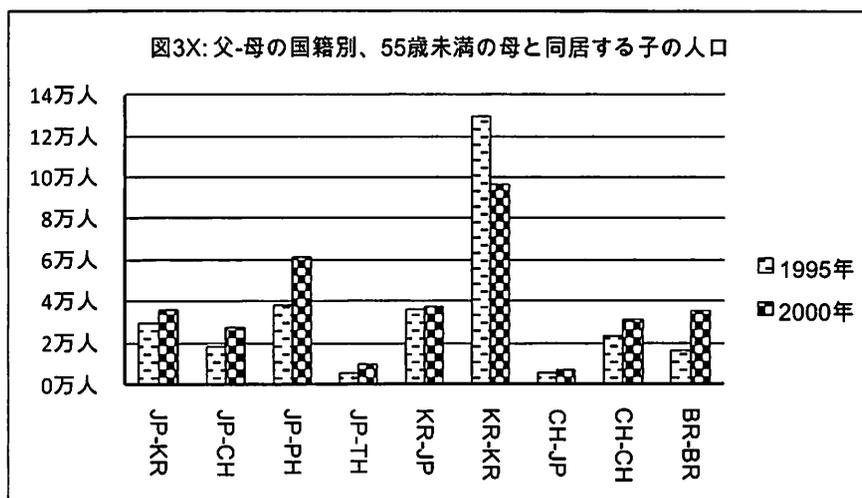
注: 単親家庭の子どもは全員20歳未満だが、それ以外の家庭の子は20歳以上の者を含む。「子ども3人以上」の親には3.1人の子がいと仮定して集計。出典: 1995年国勢調査オーダーメイド集計。

表3B: 親の国籍別、55歳未満の母と同居する子の人口および55歳未満の父と同居する父子世帯の子の人口(2000年)

(単位: 人)

		父 (夫 の 国 籍							(母子のみ)	
		日本	韓国・朝鮮	中国	フィリピン	タイ	ブラジル	ペルー		
55 歳 未 満 母 の 国 籍	日本	27,864,952	37,702	7,330	1,272	311	1,898	663	22,484	(998,522)
	韓国・朝鮮	35,750	96,883	112	31	0	0	31	141	(11,315)
	中国	27,702	314	30,751	0	0	0	0	180	(2,389)
	フィリピン	61,414	433	0	2,297	10	223	40	284	(1,098)
	タイ	9,648	0	0	20	522	10	0	70	(446)
	ブラジル	5,949	10	0	0	0	34,970	240	253	(3,196)
	ペルー	1,206	0	20	0	0	200	6,082	161	(310)
	他 (含不詳)	13,998	60	61	0	0	101	122	15,379	(967)
	(父子のみ)	(128,609)	(930)	(180)	(222)	(30)	(70)	(0)	(343)	—

注: 単親家庭の子どもは全員20歳未満だが、それ以外の家庭の子は20歳以上の者を含む。「子ども3人以上」の親には3.1人の子がいると仮定して集計。出典: 2000年国勢調査オーダーメード集計。



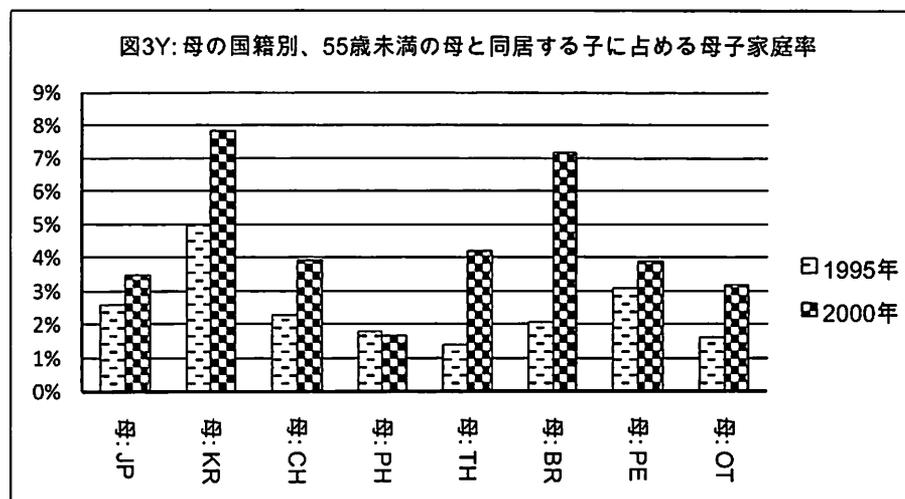
第一に、「外国にルーツを持つ子どもたち」で最大の人口規模を誇るのは両親が韓国・朝鮮人である子どもであり、これらの子どもは韓国・朝鮮籍を有していると考えられる。一方、親の一方が日本人であり、もう一方が韓国・朝鮮人であるという子どもも相当数いるが、これらの子どもの多くは日本国籍を有していると考えられる。したがって、仮に1995年の状況を事例に $(29902 + 36220) \div 129933 = 0.51$ という計算をすれば、韓国・朝鮮籍を持つ子が目の前に100人いたとした場合、国籍は日本だが親の一方が韓国・朝鮮籍である子がその背後に51人いるということになる。仮に2000年の状況を事例に同様の計算をすれば、その人数は76人となる。

第二に、「外国にルーツを持つ子どもたち」で第2の人口規模を誇るのは、日本人の父とフィリピン人の母を持つ子どもであり、しかもその1995年から2000年までの間に2万人も増加している。「外国にルーツを持つ子どもたち」といえば、やはりどうしてもブラ

ジル人や中国人の子どもに注目が集まりがちである。だが、日本国籍を有する日比国際児は実はブラジルや中国の国籍を有する子どもたちよりもずっと多い。

第三に、ブラジル人の両親を持つ子供が、1995年から2000年までの間に2万人も増加（ほぼ倍増）している。1990年代後半は急増するブラジル人児童生徒への対応で、学校現場は相当忙しかつたに違いない。

さて、参考までに子どもの人口に占める母子家庭率についても図3Yに挙げておいた。この図は表3Aおよび表3Bに掲げられた数値を用いて作成したものであるが、この図から言えるのは以下のことである（なお「母:OT」とは母がその他の国籍である子どもという意味である）。



第一に、1995年と2000年の状況を総合的に見る限り、母子家庭で生活している割合が最も少ないのはフィリピン人を母に持つ子どもである。しかもその割合は5年間の間に（本図のなかでは唯一）僅かではあるが減少している。これは予想外の結果であった。フィリピン人妻と言え、日本人男性と知り合って子をもうけるものの、日本人男性が結婚してくれない（あるいはDVなどの被害に遭うなどのやむを得ない理由により日本人男性のもとを離れる）などの事情により、母子家庭で子を育てている、というイメージがあるが、本図はそのようなイメージが圧倒多数のフィリピン人母には当てはまらない（あるいは、そのようなフィリピン人母が母子家庭を構成している時期は非常に短く、すぐに他の日本人男性やフィリピン人男性と結婚し安定した結婚生活を送っている）ということを示している。

第二に、タイ人母を持つ子に占める母子家庭率が1990年代後半に急増している。フィリピン人母と似たような経緯で来日、出産したと思われるタイ人母が、フィリピン人母とは全くことなる道（夫に頼らずに子を育てるという道）を選択しているということに注目

したい。これは「結婚しなければならない」という規範が強くないタイ本国の状況（落合 2006: 74）とも関係しているかも知れないが、はっきりとした理由は分からない。

第三に、ブラジル人母を持つ子に占める母子家庭率が 1990 年代後半に急増しており、その割合の高さは韓国・朝鮮人とともに他の集団を大きく上回っている。ブラジル人と言えば、本国においても日本においても出生児に占める非嫡出子の割合が近年急増しているが（鍛冶 2012）、これはそのこととも関係しているのかも知れない。

4 外国人の親と持ち家で生活している子の割合

子どもが持ち家で生活するという事は、その子どもが経済的に安定した家庭環境で生活していることを示唆しているのみならず、その家族全体が地域社会の人間関係のなかによりしっかりと位置付いていることも示唆している。経済的な資本や社会的な資本に恵まれたこうした生活環境は、文化的な資本を獲得する上で（すなわち学業的な成功を収める上で）有利な条件を子どもに保障していると考えられる。そこで、持ち家で生活している子どもの人数を集計したのが表 4A と表 4B であり、その割合を棒グラフにしたのが図 4 である。

表4A: 親の国籍別、55歳未満の母と持ち家に同居している子の人口(1995年)

(単位: 人)

		父 (全 年 齢) の 国 籍								総数
		日本	韓国・朝鮮	中国	フィリピン	タイ	ブラジル	ペルー	他(含不詳)	
55 歳 未 満 母 の 国 籍	日本	22,603,116	16,873	2,050	181	60	90	60	4,754	(22,627,072)
	韓国・朝鮮	12,520	91,030	82	0	0	0	0	20	(103,652)
	中国	7,905	40	4,041	0	0	0	0	10	(11,976)
	フィリピン	13,886	61	0	0	0	0	0	0	(13,957)
	タイ	2,458	0	0	0	0	0	0	0	(2,458)
	ブラジル	989	0	0	0	0	91	0	0	(1,100)
	ペルー	252	0	0	0	0	0	0	0	(252)
	他(含不詳)	6,220	60	40	0	0	0	0	725	(7,025)
	総数	(22,647,356)	(107,994)	(6,192)	(181)	(60)	(212)	(60)	(5,479)	22,767,472

注: 「子ども3人以上」の夫婦には3.1人の子がいると仮定して集計。子には20歳以上の者も含まれる。

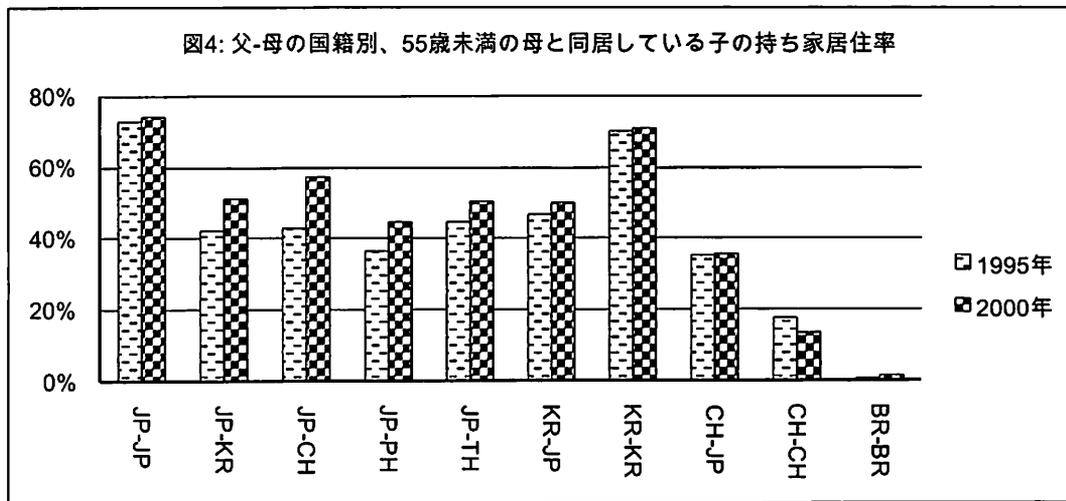
出典: 1995年国勢調査オーダーメイド集計。

表4B: 家族の持ち家に55歳未満の母と同居する子どもの人数(2000年)

(単位: 人)

		父 (全 年 齢) の 国 籍								総数
		日本	韓国・朝鮮	中国	フィリピン	タイ	ブラジル	ペルー	他(含不詳)	
55 歳 未 満 母 の 国 籍	日本	20,604,852	18,851	2,596	222	81	293	241	6,731	(20,633,867)
	韓国・朝鮮	18,282	68,610	62	0	0	0	0	61	(86,964)
	中国	15,841	162	4,068	0	0	0	0	50	(20,090)
	フィリピン	27,288	131	0	51	0	0	0	0	(27,490)
	タイ	4,829	0	0	0	62	0	0	20	(4,911)
	ブラジル	1,977	0	0	0	0	485	0	0	(2,442)
	ペルー	430	0	0	0	0	0	163	0	(593)
	他(含不詳)	7,356	50	51	0	0	0	0	1,146	(8,613)
総数		(20,680,845)	(87,815)	(6,746)	(273)	(153)	(778)	(394)	(7,977)	20,785,011

注: 「子ども3人以上」の夫婦には3.1人の子がいると仮定して集計。子には20歳以上の者も含まれる。
 出典: 2000年国勢調査オーダーメイド集計。



これを見ると、日本や韓国・朝鮮にルーツを持つ子どもの間では両親が国際結婚である方が持ち家居住率が低い一方、中国にルーツを持つ子どもの間では両親が国際結婚（ただし、ここでは日本人との国際結婚）である方がむしろ持ち家居住率が高いという結果になっている。

また、両親がブラジル人である子どもには持ち家に住んでいる者がほとんどおらず、ブラジル人保護者の経済力の限界および「顔の見える」住民として日本の地域社会に根を張って生きているとは言えない困難な状況（梶田他 2005）を反映しているが、本稿の最後に見るブラジル人の子どもたちの通学率の低さのある部分は「漢字が苦手」（鍛冶 2008）という文化資本にかかわる要因の他に、こうした経済資本や社会関係資本にかかわる要因も大きいと思われる。実際、過去5年間の間に日本国内で転居を経験したブラジル人の子ども（すなわち地域社会との縁が薄いと考えられる子ども）はそうでない子どもより通学率が低かったし（移住連貧困プロジェクト 2011: 44）、転居をきっかけにして不就学に陥るブラジル人の子どもたちも少なくない（宮島他 2005）。

5 子育て世代の外国人夫婦の学歴と職業

では次に、親の学歴や職業という視点から、外国にルーツを持つ子どもたちの家庭背景について見ていこう。まず、はじめに断っておかなくてはならないことは、データの制約上、本節が扱うデータには同居する子どもの人数はおろか、その有無すら含まれていないということだ。したがって、本節で見る夫婦には子どもがいない夫婦も含まれている。とはいえ、夫婦の国籍組み合わせ別に見たときの子育て世代の「最大公約数」が妻 30 代前半から妻 40 代後半までであることが第 3 節において明らかになっているので、本節では妻が 30 代および 40 代の夫婦について、その学歴と職業を夫婦の国籍組み合わせ別に見ていくことにする。

また、本来であれば、両親の学歴と職業を両親の国籍組み合わせ別に確認したいところだが、学歴に関する調査項目は 10 年に一度の大調査（具体的には 1990 年、2000 年など 10 年ごとの調査）にのみ含まれているうえ、2000 年のオーダーメイド集計からは両親の国籍組み合わせ別の妻側の学歴が入手できなかった。また、両親の国籍組み合わせ別の妻側の職業データも入手しなかったが、今回のところは 1995 年の妻側の労働力状態データがかろうじて入手できただけだった。

以上のような制約はあるにせよ、少なくとも父親側の労働力状態および職業については両親の国籍組み合わせ別のものを集計することができた。

なお、参考までに解説しておくが、職業については、国勢調査で言う、A 専門的・技術的職業従事者、B 管理的職業従事者、C 事務従事者、D 販売従事者の 4 カテゴリーの合計を「W カラー」、それ以外の職業の合計を「B カラー」と表章するように、また、学歴については「短大・高専」と「大学・大学院」の合計を「高等教育」として表章するようオーダーした上でオーダーメイド集計データの提供を受けている。

表5A: 夫婦の国籍別、妻の労働力状態別の夫の労働力状態および職業(1995年)(次表に続く)

(単位: 夫婦組数)

		夫日本 (全年齢)						
		Wカラー	Bカラー	完全失業者	家事	通学	その他	総数
—	就業者	4,008,560	3,981,270	86,870	5,770	1,460	25,360	8,109,280
妻	30 完全失業者	56,840	59,750	8,740	120	80	760	126,270
日	ゝ 家事	3,335,360	2,384,350	77,140	2,450	780	35,510	5,835,600
本	49 通学	3,410	1,480	50	50	30	190	5,210
歳	その他	5,510	5,830	380	530	20	2,770	15,030
—	総数	7,409,680	6,432,680	173,170	8,910	2,350	64,610	14,091,380

		夫日本 (全年齢)						
		Wカラー	Bカラー	完全失業者	家事	通学	その他	総数
妻	— 就業者	3,200	4,050	230	20	0	60	7,550
韓	30 完全失業者	180	140	60	10	0	0	380
国	ゝ 家事	5,000	6,600	680	0	0	230	12,500
・	49 通学	10	20	0	0	0	0	30
朝	歳 その他	30	40	0	20	0	10	100
鮮	— 総数	8,420	10,840	960	40	0	290	20,560

		夫日本 (全年齢)						
		Wカラー	Bカラー	完全失業者	家事	通学	その他	総数
—	就業者	2,250	2,570	140	20	10	50	5,040
妻	30 完全失業者	80	260	80	20	0	0	450
中	ゝ 家事	4,790	5,610	390	10	0	170	10,980
国	49 通学	60	80	0	0	10	20	170
歳	その他	30	10	0	0	0	10	50
—	総数	7,200	8,550	610	50	20	250	16,680

		夫日本 (全年齢)						
		Wカラー	Bカラー	完全失業者	家事	通学	その他	総数
妻	— 就業者	1,100	2,460	80	10	0	50	3,690
フ	30 完全失業者	30	180	30	0	0	10	250
イ	ゝ 家事	3,800	7,410	440	10	0	130	11,800
リ	49 通学	0	10	0	0	0	0	10
ビ	歳 その他	10	50	0	0	0	0	60
ン	— 総数	4,930	10,120	550	20	0	200	15,820

		夫日本 (全年齢)						
		Wカラー	Bカラー	完全失業者	家事	通学	その他	総数
—	就業者	330	510	0	0	0	0	840
妻	30 完全失業者	30	50	10	0	0	0	100
タ	ゝ 家事	830	2,150	150	0	0	10	3,140
イ	49 通学	20	0	0	0	0	0	20
歳	その他	0	30	0	0	0	0	30
—	総数	1,200	2,760	160	0	0	10	4,130

注: Wカラー = A 専門的・技術的職業従事者 + B 管理的職業従事者 + C 事務従事者 + D 販売従事者。

Bカラー = E サービス職業従事者 ~ J 分類不能の職業の合計。出典: 1995年国勢調査オーダーメード集計。

表5A: 夫婦の国籍別、妻の労働力状態別の夫の労働力状態および職業(1995年)(前掲表からの続き)

(単位: 夫婦組数)

		夫韓国・朝鮮(全年齢)						
		Wカラー	Bカラー	完全失業者	家事	通学	その他	総数
妻	— 就業者	3,480	3,970	550	0	0	40	8,050
	30 完全失業者	50	90	80	10	0	10	230
	日 家事	3,530	4,160	470	20	10	50	8,230
	本 49 通学	0	0	0	0	0	0	0
	歳 その他	0	10	0	0	0	0	10
—	総数	7,070	8,210	1,110	30	10	110	16,530

		夫韓国・朝鮮(全年齢)						
		Wカラー	Bカラー	完全失業者	家事	通学	その他	総数
妻	— 就業者	10,440	11,910	610	10	100	110	23,180
	韓 30 完全失業者	100	230	100	0	10	0	440
	国 家事	12,660	11,610	970	0	360	420	26,030
	・ 49 通学	30	20	0	0	110	0	160
	朝 歳 その他	10	10	0	0	0	80	100
鮮 —	総数	23,240	23,780	1,680	10	580	610	49,880

		夫中国(全年齢)						
		Wカラー	Bカラー	完全失業者	家事	通学	その他	総数
妻	— 就業者	720	770	160	20	30	20	1,710
	30 完全失業者	30	40	40	0	0	0	110
	日 家事	620	690	140	0	20	30	1,500
	本 49 通学	10	0	10	0	0	0	20
	歳 その他	0	0	0	10	10	0	20
—	総数	1,380	1,500	350	30	50	50	3,350

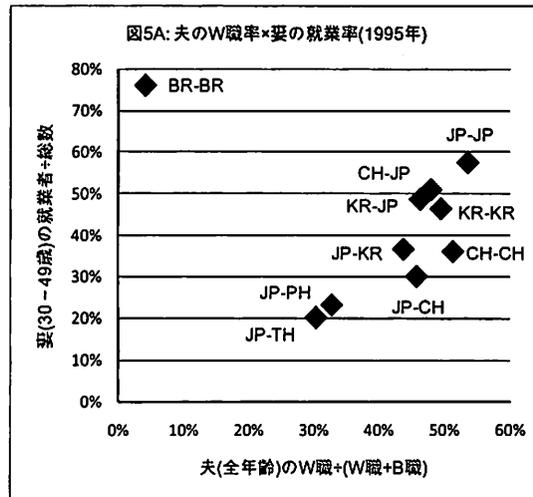
		夫中国(全年齢)						
		Wカラー	Bカラー	完全失業者	家事	通学	その他	総数
妻	— 就業者	2,460	3,350	110	70	320	20	6,340
	30 完全失業者	160	100	160	10	20	0	450
	中 家事	4,150	3,250	490	100	1,300	270	9,550
	国 49 通学	300	0	30	40	730	10	1,110
	歳 その他	0	20	0	30	10	20	90
—	総数	7,070	6,720	790	260	2,380	320	17,520

		夫ブラジル(全年齢)						
		Wカラー	Bカラー	完全失業者	家事	通学	その他	総数
妻	— 就業者	260	7,280	90	0	10	0	7,650
	ブ 30 完全失業者	0	130	90	0	0	0	220
	ラ 家事	150	1,900	50	0	0	90	2,190
	ジ 49 通学	0	0	0	0	0	0	0
	ル 歳 その他	0	10	0	0	0	0	10
—	総数	400	9,330	230	0	10	90	10,060

注: Wカラー = A 専門的・技術的職業従事者 + B 管理的職業従事者 + C 事務従事者 + D 販売従事者。

Bカラー = E サービス職業従事者 - J 分類不能の職業の合計。出典: 1995年国勢調査オーダーメード集計。

さて、まず図 5A は表 5A を元に作成した散布図である。横軸には就業者に占める W 職の割合を夫について示している。一方、縦軸には総数に占める就業者の割合を妻について示している。



本図を作成するにあたっては、複雑な表を単純な図にして全体的な傾向を眺めようとしただけで、別に両者の因果関係を確認めようとして散布図を作成したわけではなかった。だが、こうして眺めてみると、左下の JP-PH や JP-TH から右上の JP-JP まで、夫の W 職率が高いほど妻の就業率が高くなるという全般的な傾向が見られた。フィリピン人女性やタイ人女性と結婚する日本人男性に W 職が少ないのは、これらの女性と結婚する日本人男性には地方で農業や工業に従事している者が含まれているからかも知れない。また、男女共働きが一般的である中国から来た女性達の就業率が、夫の W 職率の割にはむしろやや低めであるのは意外だった。だが、この図で最も特徴的なのは、やはりブラジル人夫婦である。夫の B 職率が極めて高いのみならず、妻の就業率も極めて高い。デカセギのブラジル人夫婦が工場の生産ライン等で共働きしている様子が良く表れていると言えるだろう。

表5B: 夫婦の国籍別、夫の学歴別の夫の労働力状態および職業(2000年)(次表に続く)

(単位: 夫婦組数)

夫日本(全年齢) + 妻日本(30~49歳)	夫の労働力状態						総数
	Wカラー	Bカラー	完全失業者	家事	通学	その他	
夫 高等教育卒業者	4,055,450	1,026,920	49,230	2,370	410	16,830	5,151,170
の 高等教育在学者	4,250	660	0	0	2,360	0	7,260
学 その他	2,574,450	4,476,070	142,670	6,370	670	115,660	7,315,890
歴 総数	6,634,150	5,503,650	191,900	8,740	3,440	132,490	12,474,320

夫日本(全年齢) + 妻韓国・朝鮮(30~49歳)	夫の労働力状態						総数
	Wカラー	Bカラー	完全失業者	家事	通学	その他	
夫 高等教育卒業者	4,960	2,040	170	0	0	170	7,330
の 高等教育在学者	10	20	0	0	0	0	30
学 その他	5,780	10,990	840	20	0	710	18,320
歴 総数	10,750	13,050	1,010	20	0	880	25,680

夫日本(全年齢) + 妻中国(30~49歳)	夫の労働力状態						総数
	Wカラー	Bカラー	完全失業者	家事	通学	その他	
夫 高等教育卒業者	5,280	2,450	330	30	0	150	8,240
の 高等教育在学者	10	0	0	0	10	0	20
学 その他	4,890	11,340	630	100	20	770	17,730
歴 総数	10,180	13,790	960	130	30	920	25,990

夫日本(全年齢) + 妻フィリピン(30~49歳)	夫の労働力状態						総数
	Wカラー	Bカラー	完全失業者	家事	通学	その他	
夫 高等教育卒業者	4,160	2,520	200	10	0	120	7,000
の 高等教育在学者	0	10	0	0	10	0	20
学 その他	6,200	20,310	1,240	70	0	620	28,460
歴 総数	10,360	22,840	1,440	80	10	740	35,480

夫日本(全年齢) + 妻タイ(30~49歳)	夫の労働力状態						総数
	Wカラー	Bカラー	完全失業者	家事	通学	その他	
夫 高等教育卒業者	1,050	600	40	10	0	10	1,700
の 高等教育在学者	0	0	0	0	10	0	10
学 その他	1,280	5,450	240	0	0	200	7,200
歴 総数	2,330	6,050	280	10	10	210	8,910

注: Wカラー = A 専門的・技術的職業従事者 + B 管理的職業従事者 + C 事務従事者 + D 販売従事者。

Bカラー = E サービス職業従事者 ~ J 分類不能の職業の合計。出典: 1995年国勢調査オーダーメイド集計。

表5B: 夫婦の国籍別、夫の学歴別の夫の労働力状態および職業(2000年)(前掲表からの続き)

(単位: 夫婦組数)

夫韓国・朝鮮(全年齢) +妻日本(30~49歳)	夫の労働力状態						総数
	Wカラー	Bカラー	完全失業者	家事	通学	その他	
夫 高等教育卒業者	2,690	1,210	140	10	0	70	4,110
の 高等教育在学者	40	30	0	0	30	0	100
学 その他	4,130	7,630	770	30	0	500	13,060
歴 総数	6,860	8,870	910	40	30	570	17,270

夫韓国・朝鮮(全年齢) +妻韓国・朝鮮(30~49歳)	夫の労働力状態						総数
	Wカラー	Bカラー	完全失業者	家事	通学	その他	
夫 高等教育卒業者	9,420	3,380	290	20	20	200	13,320
の 高等教育在学者	80	60	0	0	600	0	740
学 その他	8,860	14,010	910	60	30	1,120	24,980
歴 総数	18,360	17,450	1,200	80	650	1,320	39,040

夫中国(全年齢) +妻日本(30~49歳)	夫の労働力状態						総数
	Wカラー	Bカラー	完全失業者	家事	通学	その他	
夫 高等教育卒業者	1,450	700	110	30	0	60	2,360
の 高等教育在学者	0	0	0	0	90	0	90
学 その他	420	1,390	200	0	0	120	2,110
歴 総数	1,870	2,090	310	30	90	180	4,560

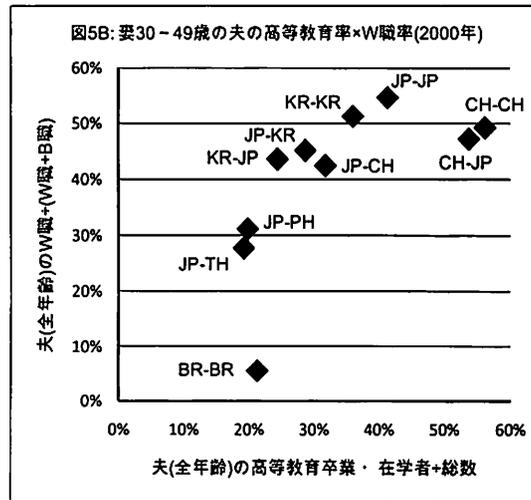
夫中国(全年齢) +妻中国(30~49歳)	夫の労働力状態						総数
	Wカラー	Bカラー	完全失業者	家事	通学	その他	
夫 高等教育卒業者	8,140	2,240	190	90	120	400	11,180
の 高等教育在学者	180	260	0	0	1,340	0	1,780
学 その他	1,050	7,160	670	130	70	1,040	10,110
歴 総数	9,370	9,660	860	220	1,530	1,440	23,070

夫ブラジル(全年齢) +妻ブラジル(30~49歳)	夫の労働力状態						総数
	Wカラー	Bカラー	完全失業者	家事	通学	その他	
夫 高等教育卒業者	590	3,620	90	0	0	50	4,350
の 高等教育在学者	0	20	0	0	0	0	20
学 その他	490	14,520	380	50	10	730	16,170
歴 総数	1,080	18,160	470	50	10	780	20,540

注: Wカラー = A 専門的・技術的職業従事者 + B 管理的職業従事者 + C 事務従事者 + D 販売従事者。

Bカラー = E サービス職業従事者 ~ J 分類不能の職業の合計。出典: 1995年国勢調査オーダーメイド集計。

一方の図 5B は表 5B を元に作成した散布図である。横軸には夫の学歴——すなわち、高等教育機関を卒業した（または高等教育機関に在学している）者の割合——を、縦軸には就業者に占める W 職の割合を夫について示してある。

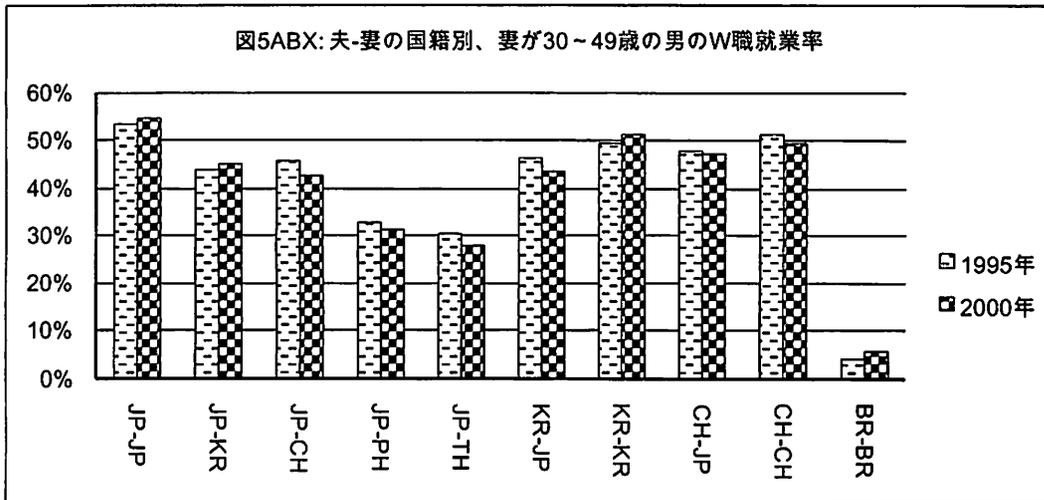


先程とは異なり、この図は最初から因果関係を想定しつつ作成してあるが、先程と同様、左下の JP-PH や JP-TH から右上の JP-JP まで、点がほぼ一直線に並び、夫の学歴と夫の職業が強く結びついていることが良く分かるし、高等教育を受けている日本人はそうでない日本人よりも、W 職に就いている日本人はそうでない日本人よりも、東南アジアの女性よりは東アジアの女性と、東アジアの外国人女性よりは日本人女性と、結婚する確率が高まるであろうことも予想できる。

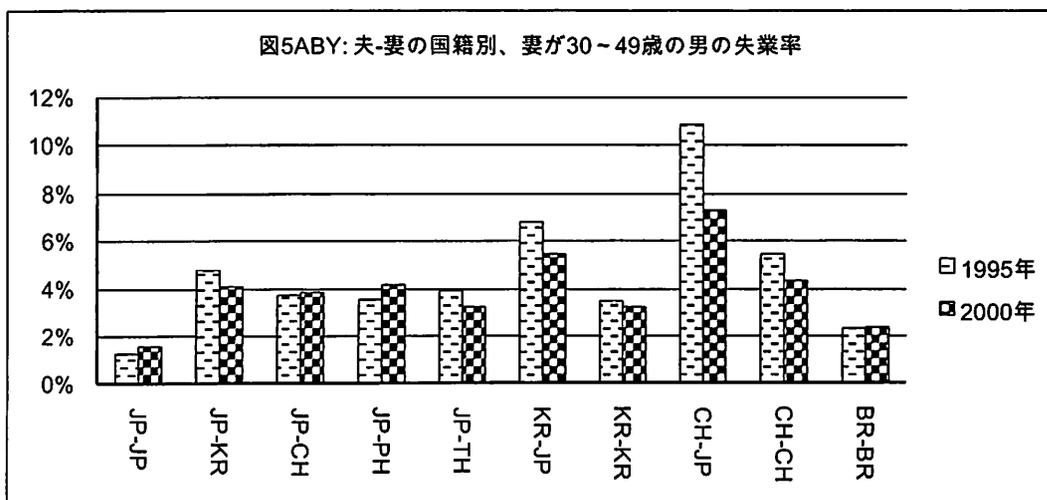
また、本図でも、やはり中国人夫とブラジル人夫が「回帰直線」とは離れたところに分布しており、両者とも学歴の割に W 職に就けていない傾向が見られる。これは（韓国・朝鮮人とは異なり）両者がニューカマーを中心とする人々であり、日本語運用力等の制約のために W 職に就きにくいからだと思われる。なお、中国人夫の学歴が日本人夫より高いのは、中国人男性の入国経路として留学がかなり「太い」（逆に言えば、中国人男性にとってそれ以外の経路——例えば結婚——がかなり「細い」）からだろう。

さて、次に 1995 年から 2000 年までの経年変化を W 職就業率と完全失業率について見てみよう。

まずは図 5ABX の W 職就業率だが、フィリピン人やタイ人と結婚している日本人男性は低く、ブラジル人と結婚しているブラジル人男性に至っては「ほとんどいない」といってよいほど低い。一方、中国人男性はニューカマーである割に高い割合で W 職に就けているが、彼らの学歴の高さを考えたら、実はこれでも低い方であると言える。



次に図 5ABY の完全失業率だが、予想に違わず、日本人と結婚している日本人男性の失業率が最も低い。また、ブラジル人と結婚しているブラジル人も失業率が比較的低い。失業率が高いのは日本人と結婚している中国人だが、1995年から2000年までの間に、4ポイント前後改善している様子も見て取れる。



6 外国人の若者の通学率と未婚率

最後に、外国にルーツを持つ若者の通学率と未婚率について見ていこう。実数については表 6A と表 6B で確認して頂くとして、ここでは図の方で解説していきたい。なお、総数が 200 人未満のセルについては、通学率や未婚率を計算しなかったことを断っておく。

表6A: 国籍別、年齢別、男女別の通学者数、未婚者数、総数(1995年)(次表に続く)

		男							女						
		JP	KR	CH	PH	TH	BR	PE	JP	KR	CH	PH	TH	BR	PE
15歳	通学	802,460	4,090	420	70	10	270	70	763,080	3,690	660	80	10	160	30
16歳	通学	798,660	3,640	620	40	20	130	30	771,360	3,610	510	60	20	60	20
17歳	通学	805,380	3,630	500	30	10	80	50	792,180	3,630	440	30	10	70	40
18歳	通学	687,530	2,900	580	30	20	20	0	688,820	2,890	420	10	0	30	10
19歳	通学	551,560	2,520	510	20	40	20	10	574,420	2,350	540	10	10	20	0
20歳	通学	466,000	1,970	420	30	80	30	30	416,380	1,920	810	20	50	40	0
21歳	通学	390,770	1,730	810	30	70	20	20	240,940	1,330	910	20	50	50	0
22歳	通学	304,600	1,470	1,130	0	90	10	0	141,290	1,260	910	30	10	80	10
23歳	通学	171,430	1,060	1,250	40	50	40	0	52,360	1,000	1,370	10	60	80	0
24歳	通学	88,040	900	1,310	10	50	10	10	26,070	970	1,340	10	80	20	0
25歳	通学	40,770	1,090	1,600	30	100	10	10	16,050	650	1,090	0	80	40	10
26歳	通学	22,040	890	1,580	30	90	10	0	10,410	490	1,290	30	20	70	0
27歳	通学	13,800	830	1,490	0	40	20	20	7,290	470	1,240	20	20	20	20
28歳	通学	9,720	900	1,060	40	50	40	10	6,080	370	930	50	10	30	20
29歳	通学	5,170	770	1,080	40	20	30	20	3,480	360	860	0	20	20	0
30歳	通学	5,170	720	1,270	20	10	10	0	3,670	260	590	20	20	30	0
31歳	通学	3,510	330	1,340	40	30	0	0	2,710	220	700	10	0	10	0
32歳	通学	2,660	300	1,680	10	30	10	0	2,480	250	750	0	0	0	0
33歳	通学	1,660	320	880	10	0	10	0	1,550	130	430	10	0	0	0
34歳	通学	1,330	200	710	10	10	10	10	1,560	120	360	20	20	10	0
15歳	未婚	814,530	4,150	410	70	10	540	80	769,310	3,720	720	70	10	310	30
16歳	未婚	835,930	3,810	640	50	20	950	130	790,410	3,670	580	80	20	630	80
17歳	未婚	862,070	3,890	580	80	30	1,050	110	822,100	3,780	500	40	40	670	100
18歳	未婚	883,590	4,010	720	110	20	1,650	140	837,720	3,580	570	100	10	960	60
19歳	未婚	924,700	4,390	890	70	70	1,800	190	872,210	4,090	950	270	70	1,160	80
20歳	未婚	944,390	4,440	800	120	100	1,780	240	888,390	4,170	1,220	320	110	1,090	130
21歳	未婚	967,550	4,370	1,210	150	120	1,990	300	895,430	4,830	1,430	390	130	1,120	120
22歳	未婚	958,280	4,600	1,670	240	220	1,770	270	869,640	5,390	1,650	520	150	1,010	260
23歳	未婚	909,970	4,270	1,740	190	250	1,610	390	789,590	4,670	1,950	820	200	1,090	190
24歳	未婚	837,540	4,820	2,020	210	180	1,680	370	701,230	4,510	1,910	1,120	310	850	110
25歳	未婚	754,320	4,500	2,160	300	300	1,560	410	596,630	3,920	1,460	1,740	200	820	200
26歳	未婚	675,640	4,350	2,360	310	330	1,280	220	498,760	3,270	1,450	1,440	200	870	180
27歳	未婚	595,310	3,980	1,700	300	240	1,090	290	406,000	2,600	1,270	890	170	740	190
28歳	未婚	527,970	3,290	1,320	230	230	1,030	290	335,130	2,360	890	730	130	590	150
29歳	未婚	364,760	2,580	1,300	310	200	860	300	218,710	1,680	910	440	140	480	120
30歳	未婚	403,950	2,440	1,220	250	230	1,030	220	220,780	1,660	550	370	210	440	90
31歳	未婚	332,490	2,080	1,010	210	210	860	240	175,640	1,400	750	260	130	430	70
32歳	未婚	288,120	1,890	1,170	210	180	600	210	147,540	1,290	700	150	120	390	80
33歳	未婚	249,300	1,530	870	120	170	620	140	122,850	1,090	410	190	140	390	80
34歳	未婚	224,490	1,080	390	200	110	420	210	104,730	1,040	420	150	100	330	50

注: JP=日本、KR=韓国・朝鮮、CH=中国、PH=フィリピン、TH=タイ、BR=ブラジル。通学は通学のかたわら仕事を含む。

出典: 1995年国勢調査オーダーモード集計。

表6B: 国籍別、年齢別、男女別の通学者数、未婚者数、総数(2000年)(次表に続く)

		男							女						
		JP	KR	CH	PH	TH	BR	PE	JP	KR	CH	PH	TH	BR	PE
15歳	通学	723,890	2,770	650	130	0	610	150	692,720	2,880	750	150	50	470	80
16歳	通学	726,350	3,460	820	70	0	320	60	700,820	2,830	700	150	40	310	90
17歳	通学	712,650	3,070	650	40	20	250	90	704,880	3,480	830	60	30	290	90
18歳	通学	601,590	2,560	830	60	40	230	40	599,340	2,550	850	70	40	150	100
19歳	通学	469,400	1,940	1,170	40	30	50	10	491,540	2,370	1,010	60	50	100	40
20歳	通学	422,310	1,700	1,580	40	30	20	10	379,260	1,850	1,620	20	30	30	0
21歳	通学	353,580	1,480	1,540	20	90	20	0	250,990	1,400	1,660	10	40	30	0
22歳	通学	272,190	940	1,610	10	60	10	0	157,950	1,280	1,690	30	20	10	0
23歳	通学	151,820	1,040	1,350	10	90	10	0	58,380	770	1,400	40	80	40	0
24歳	通学	83,790	890	1,620	10	100	40	0	31,120	750	1,430	10	50	20	20
25歳	通学	43,530	740	1,510	20	50	30	30	18,050	600	1,630	10	70	20	0
26歳	通学	25,720	860	1,570	20	60	40	0	13,750	670	1,480	0	40	50	0
27歳	通学	17,250	890	1,500	0	20	40	0	10,580	640	1,580	10	70	0	20
28歳	通学	11,660	900	1,230	30	10	10	20	8,680	490	1,200	20	20	0	10
29歳	通学	9,210	590	1,200	0	30	20	0	6,450	520	840	40	60	0	0
30歳	通学	6,590	540	980	10	20	40	10	5,140	540	950	60	0	20	40
31歳	通学	4,790	420	940	30	50	10	0	4,690	410	660	40	30	30	0
32歳	通学	4,110	280	790	0	30	10	0	3,470	260	590	0	20	10	0
33歳	通学	2,920	290	370	0	0	20	0	3,270	160	360	0	20	10	0
34歳	通学	1,930	160	470	30	20	0	0	2,560	190	330	30	10	20	0
15歳	未婚	740,770	2,870	680	160	20	990	180	703,060	2,930	830	190	50	720	90
16歳	未婚	766,240	3,590	950	100	0	970	80	724,090	3,050	760	240	40	930	150
17歳	未婚	768,290	3,350	840	110	40	1,420	140	736,830	3,700	900	140	40	910	160
18歳	未婚	770,010	3,420	1,180	130	50	1,720	130	728,280	3,490	1,360	170	60	1,040	170
19歳	未婚	763,960	3,300	1,800	200	50	1,580	200	726,320	4,090	2,030	180	70	1,320	140
20歳	未婚	796,550	3,440	2,380	130	40	1,940	140	730,530	3,600	3,180	240	70	1,010	120
21歳	未婚	788,630	3,650	2,520	350	130	1,770	220	721,050	3,550	3,910	540	30	1,080	90
22歳	未婚	791,930	3,300	2,420	130	100	1,710	130	725,840	4,140	3,680	1,180	70	930	90
23歳	未婚	787,410	4,000	2,340	270	210	1,560	180	700,900	3,760	2,860	1,520	110	870	130
24歳	未婚	785,260	4,300	2,840	170	130	1,370	130	677,370	3,460	3,020	1,250	110	610	160
25歳	未婚	772,420	3,720	2,760	220	150	1,350	200	639,100	3,700	2,810	880	160	640	120
26歳	未婚	748,960	3,720	2,680	210	130	1,070	230	587,040	3,570	2,250	1,080	110	660	50
27歳	未婚	697,630	3,790	2,360	240	180	1,200	220	523,660	3,310	2,200	900	150	510	70
28歳	未婚	623,630	3,550	2,190	190	70	1,260	240	438,860	2,740	1,750	770	130	480	50
29歳	未婚	550,100	2,980	2,060	170	120	820	130	364,770	2,560	1,370	800	130	470	130
30歳	未婚	486,850	2,660	1,410	250	80	950	220	307,310	2,180	1,090	750	160	340	170
31歳	未婚	422,390	2,020	1,170	180	70	670	230	261,140	1,910	850	640	160	340	100
32歳	未婚	375,810	2,090	970	230	140	820	200	225,710	1,660	780	520	80	310	40
33歳	未婚	342,790	1,620	720	220	140	650	130	199,490	1,420	450	400	130	350	40
34歳	未婚	248,380	1,530	600	280	130	550	160	139,150	1,030	500	230	30	270	50

注: JP=日本、KR=韓国・朝鮮、CH=中国、PH=フィリピン、TH=タイ、BR=ブラジル。通学は通学のかたわら仕事を含む。

出典: 1995年国勢調査オーダーモード集計。

表6A: 国籍別、年齢別、男女別の通学者数、未婚者数、総数(1995年)(前掲表からの続き)

	男								女							
	JP	KR	CH	PH	TH	BR	PE		JP	KR	CH	PH	TH	BR	PE	
15歳 総数	818,540	4,220	430	80	10	570	80		772,910	3,770	720	90	10	310	40	
16歳 総数	839,790	3,840	680	50	20	1,020	130		794,690	3,790	590	130	20	660	80	
17歳 総数	866,900	3,950	590	80	30	1,080	110		828,200	3,880	520	70	40	780	100	
18歳 総数	890,940	4,110	730	140	30	1,680	170		848,170	3,650	590	150	10	1,320	80	
19歳 総数	939,280	4,510	930	70	70	2,040	190		894,290	4,190	980	440	110	1,680	110	
20歳 総数	969,500	4,620	870	170	100	2,300	270		930,130	4,420	1,340	620	170	1,860	200	
21歳 総数	1,011,910	4,520	1,330	170	130	2,730	370		969,360	5,280	1,850	900	250	2,170	240	
22歳 総数	1,024,560	4,880	1,830	280	240	2,700	430		985,990	5,910	2,130	1,600	300	2,260	500	
23歳 総数	1,007,160	4,730	2,180	280	270	2,650	560		960,730	5,500	2,830	2,400	470	2,370	450	
24歳 総数	970,700	5,400	2,540	320	260	3,020	640		938,230	5,910	3,220	3,070	680	2,360	350	
25歳 総数	934,460	5,410	2,950	490	360	3,000	660		909,740	5,650	2,940	4,870	720	2,310	510	
26歳 総数	917,990	5,520	3,410	450	470	2,570	480		896,660	5,330	3,640	4,770	700	2,530	500	
27歳 総数	902,710	5,600	3,110	550	420	2,580	640		876,860	5,340	3,780	4,780	750	2,270	680	
28歳 総数	904,160	4,960	2,670	640	360	2,670	720		876,090	5,230	3,270	3,800	660	2,220	610	
29歳 総数	700,570	4,410	2,900	580	390	2,140	750		687,890	4,420	3,340	3,580	700	1,840	420	
30歳 総数	876,740	4,920	3,330	610	340	2,860	680		845,240	5,200	3,430	3,820	790	1,720	510	
31歳 総数	816,770	4,840	3,960	500	340	2,470	560		798,100	5,030	4,100	3,160	690	1,610	470	
32歳 総数	801,170	4,760	4,980	600	320	2,040	530		780,830	5,010	4,720	2,320	690	1,690	300	
33歳 総数	776,250	4,430	3,350	290	320	2,010	560		761,780	5,230	3,420	2,170	520	1,340	420	
34歳 総数	767,460	4,060	2,550	360	240	1,560	600		747,810	5,330	2,900	1,590	530	1,220	340	

注: JP=日本、KR=韓国・朝鮮、CH=中国、PH=フィリピン、TH=タイ、BR=ブラジル。

出典: 1995年国勢調査オーダーメード集計。

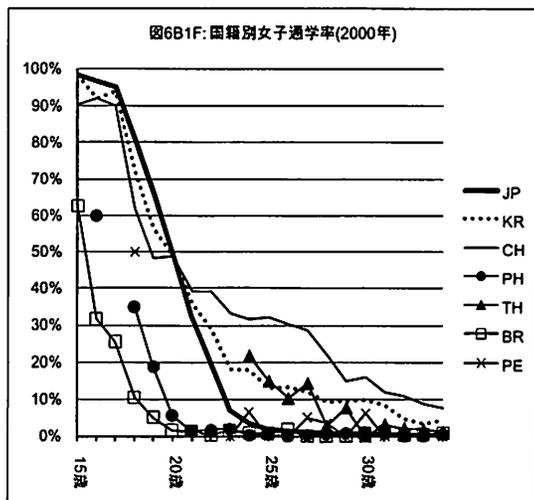
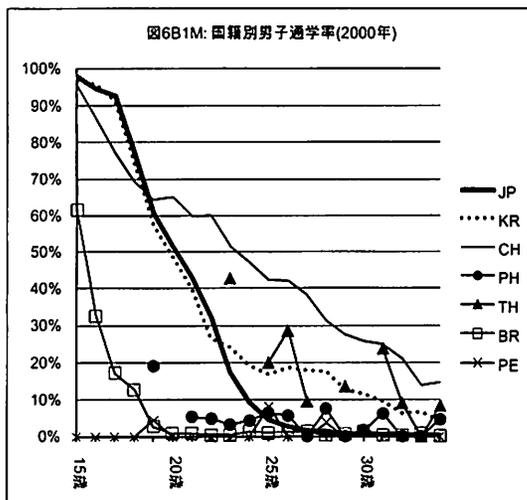
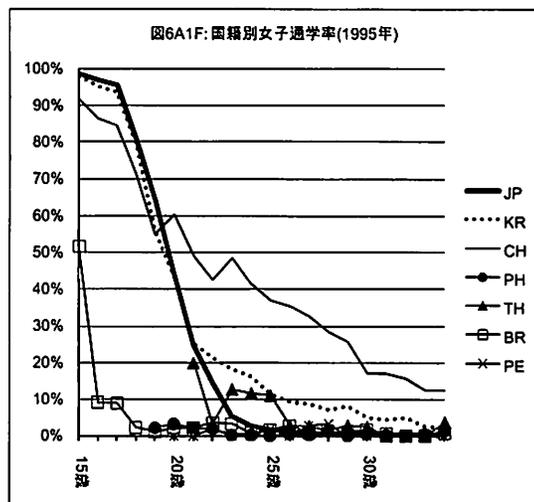
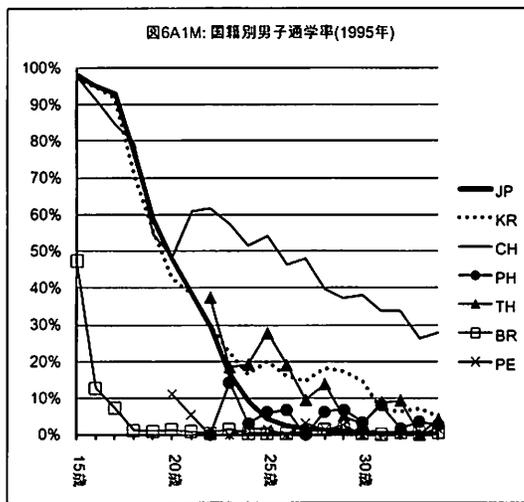
表6B: 国籍別、年齢別、男女別の通学者数、未婚者数、総数(2000年)(前掲表からの続き)

	男								女							
	JP	KR	CH	PH	TH	BR	PE		JP	KR	CH	PH	TH	BR	PE	
15歳 総数	740,890	2,870	680	160	20	990	180		703,240	2,930	830	190	50	750	90	
16歳 総数	766,690	3,610	950	100	0	980	80		725,070	3,070	760	250	40	980	150	
17歳 総数	769,350	3,360	840	110	50	1,460	150		739,920	3,700	920	160	40	1,140	180	
18歳 総数	774,030	3,440	1,200	140	50	1,810	140		736,580	3,520	1,370	200	60	1,410	200	
19歳 総数	775,080	3,380	1,820	210	50	1,840	220		744,340	4,190	2,090	320	70	1,970	180	
20歳 総数	816,270	3,510	2,420	160	40	2,350	170		764,300	3,800	3,320	360	110	1,930	190	
21歳 総数	822,470	3,730	2,580	370	130	2,470	250		776,640	3,890	4,240	790	60	2,220	150	
22歳 総数	843,300	3,560	2,680	200	100	2,580	200		810,530	4,400	4,330	1,750	110	2,360	170	
23歳 総数	863,770	4,310	2,620	310	210	2,800	320		823,130	4,240	4,210	1,990	190	2,440	220	
24歳 総数	900,460	4,650	3,430	230	150	2,980	270		861,300	4,200	4,520	2,330	230	2,340	300	
25歳 総数	940,530	4,390	3,570	310	250	3,280	370		902,020	4,630	5,050	2,200	470	2,760	320	
26歳 総数	984,390	4,590	3,730	350	210	3,000	500		948,410	5,060	4,880	2,770	390	2,780	360	
27歳 総数	1,002,330	5,000	3,910	490	210	3,160	400		975,630	5,360	5,520	3,460	490	2,530	390	
28歳 総数	989,280	5,140	3,920	400	180	3,300	530		953,080	5,280	5,480	3,830	710	2,450	270	
29歳 総数	965,990	4,580	4,340	500	220	2,930	520		928,740	5,460	5,610	4,790	780	2,470	540	
30歳 総数	937,840	4,730	3,800	630	190	2,990	490		905,880	5,520	5,930	5,670	870	2,360	640	
31歳 総数	916,300	4,350	3,760	480	210	2,630	710		893,520	4,850	5,460	5,140	940	2,220	460	
32歳 総数	898,480	4,380	3,750	600	330	3,050	710		876,050	5,410	5,450	5,160	920	2,400	440	
33歳 総数	897,590	4,350	2,690	520	260	2,770	510		882,260	4,750	4,140	4,670	1,120	1,950	510	
34歳 総数	701,170	3,890	3,180	650	240	2,480	580		682,960	4,360	4,300	4,810	890	2,120	420	

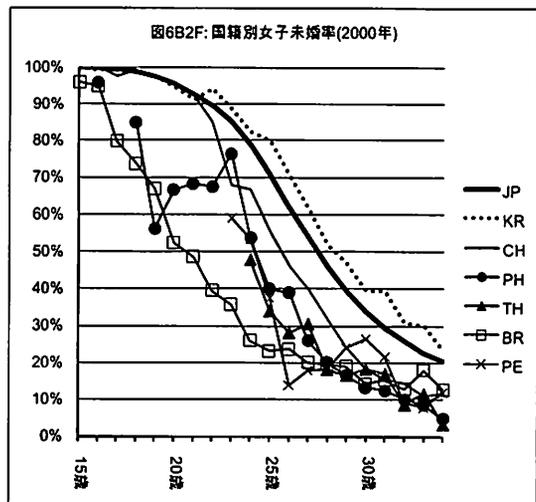
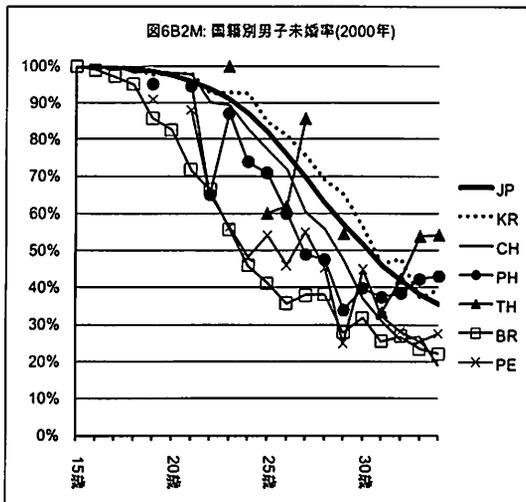
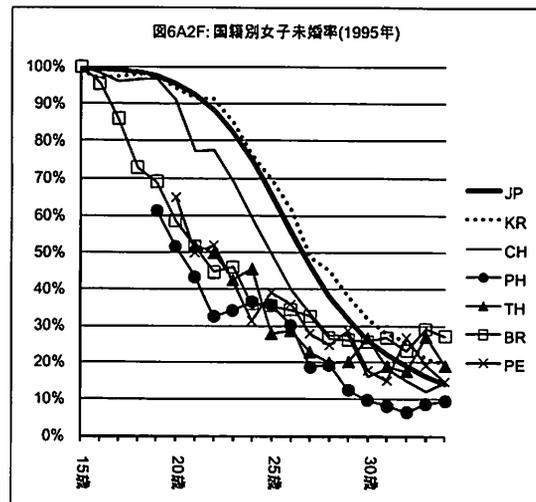
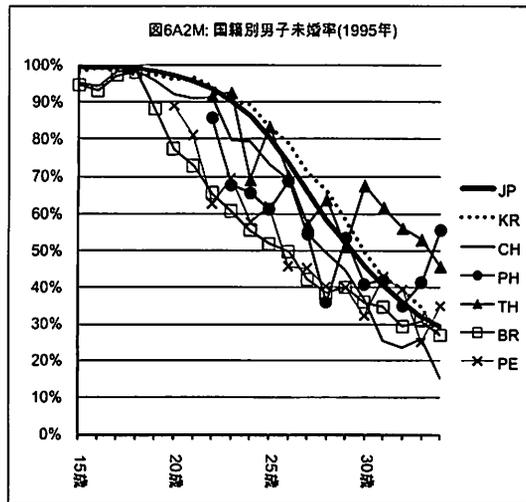
注: JP=日本、KR=韓国・朝鮮、CH=中国、PH=フィリピン、TH=タイ、BR=ブラジル。

出典: 2000年国勢調査オーダーメード集計。

まず、通学率についてだが、図 6A1M から始まる 4 つの図を見比べたとき、1995 年から 2000 年までの間に、ブラジル人については 18 歳以下の通学率が男女とも上がったことが見て取れる。一方、中国人については 18 歳以下の通学率が男子で下がったことが見て取れる。とはいえ、ブラジル人と中国人の間には依然として大きな開きがあり、16 歳の 3 割しか学校に行っていないというブラジル人の状況は、16 歳の約 9 割が学校に行っているという中国人と比べて著しく「厳しい」ことに変わりはない。



次に、未婚率についてだが、図 6A2M から始まる 4 つの図を見比べたとき、1995 年から 2000 年までの間に、ブラジル人男女において早婚化が進んでいる様子が見て取れる。また一般的な傾向として、学業から早期に遠ざかる集団ほど、特に女子において早く結婚する傾向にあると言えるだろう。



【参考文献】

移住連貧困プロジェクト編, 2011, 『日本で暮らす移住者と貧困』現代人文社.
 岩井紀子・保田時男編, 2009, 『データで見る東アジアの家族観——東アジア社会調査による日韓中台の比較』ナカニシヤ出版.
 大曲由起子・高谷幸・鍛冶致・稲葉奈々子・樋口直人, 2011a, 「在日外国人の仕事——2000年国勢調査データの分析から」『茨城大学地域総合研究所年報』44号.
 大曲由起子・高谷幸・鍛冶致・稲葉奈々子・樋口直人, 2011b, 「家族・ジェンダーからみる在日外国人——国勢調査データの分析から」『茨城大学地域総合研究所年報』44号.

大曲由起子・高谷幸・鍛冶致・稲葉奈々子・樋口直人, 2011c, 「在学率と通学率から見る在日外国人青少年の教育——2000年国勢調査データの分析から」『アジア太平洋研究センター年報』7号.

大曲由起子・高谷幸・樋口直人・鍛冶致・稲葉奈々子, 2012, 「『移住者と貧困』をめぐるアドボカシー——移住連貧困プロジェクトの取り組みから」『多言語・多文化——実践と研究』4号.

落合恵美子・上野加代子編著, 2006, 『21世紀アジア家族』明石書店.

鍛冶致, 2008, 「大阪府におけるニューカマーと高校入試」, 志水宏吉編著『高校を生きるニューカマー』明石書店.

鍛冶致, 2009, 「統計でみる外国人児童の家庭環境と教育課題」『日本語学』28巻6号.

鍛冶致, 2012, 「数字でみる『外国にルーツをもつ子どもたち』——2012年から眺める『これまで』と『これから』」, 志水宏吉・山本ベバリーアン・ハヤシザキカズヒコ・鍛冶致, 2012, 『往還する人々の教育戦略』明石書店.

梶田孝道, 丹野清人, 樋口直人, 2005, 『顔の見えない定住化——日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』名古屋大学出版会.

宮島喬・太田晴雄, 2005, 『外国人の子どもと日本の教育——不就学問題と多文化共生の課題』東京大学出版会

(付記) 本稿は科研費(「在日外国人の社会経済的地位をめぐる動態分析」、代表者: 大曲由起子)による研究成果である。